

### 第3回高木レクチャーが開催されました。

小林俊行

2007年11月23日、第3回「高木レクチャー」が、数理棟の大講堂において日本数学会と東京大学大学院数理科学研究科の共催で行なわれました。

今回の高木レクチャーの講演者は、確率解析やファイナンスで著名なマリアヴァン教授（パリ第6大学）と、世界最速のコンピュータを自作して多体問題の数値解析を行い、天文学の最先端の研究に挑んでおられる牧野淳一郎教授（国立天文台）のお二人です。

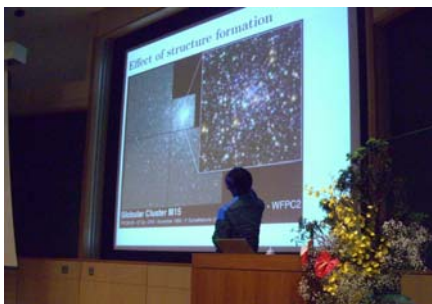


第3回高木レクチャーのマリアヴァン教授と牧野淳一郎教授



楠岡成雄教授の質問に応えるマリアヴァン教授

マリアヴァン教授は「無限次元の群の不変および準不変な確率測度」と題した講演を、牧野教授は「手作り計算天文学 — ハードウェア、アルゴリズム、ソフトウェア、サイエンス」と題した講演を、それぞれ午前、午後と連続して行われました。この日は駒場祭の初日でもあったのですが、早朝にマリアヴァン教授と一緒にキャンパスを歩いていると、そこそこで学生が模擬店を準備している様子にも教授が関心を示され、敏感に反応されるので驚きました。ぬいぐるみを着た学生に出くわしたときなどは子供のように笑いころげられ、私は80歳を越えた教授の瑞々しい感性に触れた思いがしました。同時にまたマリアヴァン教授は「駒場祭に負けて講演に人が集まらなかったら、それは講演者の責任だ」と意気軒昂な言葉も吐かれ、たいへん頼もしく思いました。実際、休日にもかかわらず150人ほどの聴衆がつめかけた講堂には熱気が満ち、第3回高木レクチャーは盛会のうちに幕を閉じました。



熱気につつまれた牧野淳一郎教授の講演

この高木レクチャーの準備と当日の運営にあたっては、桂利行研究科長、大島利雄副研究科長、楠岡成雄教授、組織委員の斎藤毅教授・河東泰之教授と私に加えて、事務職員の鴨下記代子さん・銀内純子さん・吉村明日香さんや、本学学生有志も献身的に尽力してくださり、また、日本数学会からは理事長の谷島賢二教授、前理事長の小島定吉教授、事務局の長谷川暁子さんもかけつけてくださって、その活動が支えられました。講演の様子は東大数理ビデオアーカイブプロジェクトチームによって撮影・記録され、ウェブで公開されています。講壇に飾られた美しい生け花は小林幸恵さんによる作品です。



桂研究科長によるスピーチ（ワインパーティにて）

高木レクチャーのホームページ[http://www.ms.u-tokyo.ac.jp/~toshi/takagi\\_jp/](http://www.ms.u-tokyo.ac.jp/~toshi/takagi_jp/)